

昭和57年

内水試かわら版
2号

7月16日

今年のワカサギ漁

について

内水面水産試験場では、ワカサギの資源変動要因を探るためとこの年のワカサギの漁様様を漁業者の皆さんに提供する目的をもつてトロール船による漁期前試験操業を行なっています。本年も霞ヶ浦北浦双下で実施しましたのでその結果を表1に示しました。

(北浦) \$57.6.30.

| 場所 | 漁獲量 (kg) | 漁獲尾数 (尾) | 平均体重 (g) |
|---------|----------|----------|----------|
| 釜谷 (下野) | 13.6 | 8608 | 1.58 |
| 江川 (下野) | 11.5 | 6150 | 1.87 |
| 白浜 (下野) | 15.5 | 9394 | 1.65 |
| 白浜 (上野) | 11.9 | 7677 | 1.55 |
| (平均) | 13.1 | 7957 | 1.66 |

(霞ヶ浦) \$57.7.5

| 場所 | 漁獲量 (kg) | 漁獲尾数 (尾) | 平均体重 (g) |
|----------|----------|----------|----------|
| 土浦入 (下野) | 1.5 | 666 | 2.23 |
| 三又 (下野) | 0.1 | 41 | 2.86 |
| 高浜入 (下野) | 6.2 | 1962 | 3.16 |
| (平均) | 2.6 | 890 | 2.75 |

表-1

いすれの結果もトロール船を20分間おろし操業して得た結果です。北浦は表をみてわかるようにどの場所もおおむね平均に魚が分布してあり、白浜地区で行なった下野と上野の結果を比べてみても殆んど差はみられません。魚体の大きさは御存知のように大小二群があつて単純に平均値で指し示すことは不合理なのですが大型群同志を比べてみると昨年と同様平年よりはやや大きめでありました。過去の経過から大小二群が明らかになりまして分かれる年はあまり漁が良

くなく、大きい魚体から小さい魚体までバラバラに見られる年は豊漁であるような傾向がみられていきますので、そのような点からみると今年大小二群がはっきりしてきているといへば若干の不安材料ではあります。今回の試験操業に先立ち行なったゴロ曳網によるワカサギ捕獲では、平均値でも昨年を上回る捕獲数が得られたこと、なとも加味して今年の予測をするに昨年(漁獲量は約90トン)であり昭和29年以後の統計資料によると低い方から数えて二番目にワカサギ不漁年(のような不漁はなく、年漁獲量は200トン前後の平年並の漁況が考えられます。霞ヶ浦の方は、土浦入、高浜入に多くワカサギが分布し、湖心部に少ないという極めて不均一な分布を示しています。このようなワカサギの分布は昭和53年に湖心部から湖尻部にかけて

緑藻が大増殖した年のワカサギの分布とよく似ています。このような不均一なワカサギの分布については漁師さんは、湖心部でエビ曳網を多く操業したために土浦入、高浜入にワカサギが逃げ込んだためであるといつておられました。表2に示した6月初旬と中旬にかけて行なったエビ曳網による捕獲試験においても霞ヶ浦では必ず不均一な分布を示しているにもかかわらずエビ曳網によって土浦入高浜入にワカサギが追いやられたの

6月8日

| 場所 | 尾数 |
|----|------|
| 水原 | 2447 |
| 釜谷 | 3839 |
| 白浜 | 1281 |
| 江川 | 2034 |
| 馬渡 | 134 |
| 梶山 | 1276 |

6月16日

| 場所 | 尾数 |
|-----|-----|
| 沖宿 | 119 |
| 牛渡 | 28 |
| 三又 | 9 |
| 麻生 | 7 |
| 手賀 | 15 |
| 八木崎 | 73 |

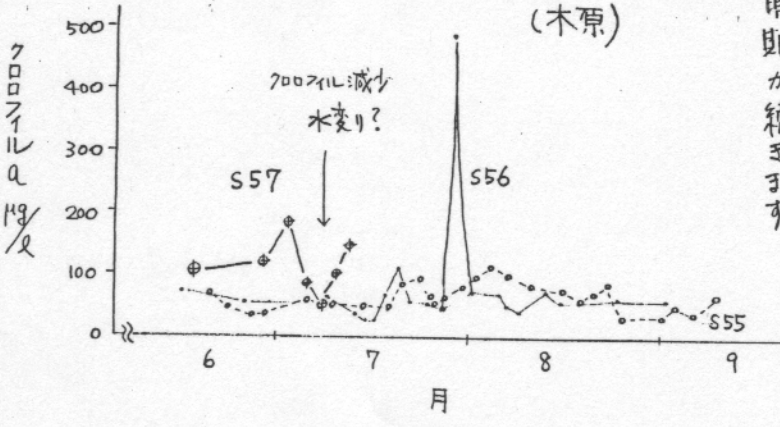
表2. ワカサギのゴロ曳網による捕獲試験

内水試験図

ではなく、過去の例からみておし
る環境との関係で二のような偏り
りが生じたのでは反りが考えて
ります。今年も昭和55年の時のよ
うな湖心部での緑藻類の発生はみ
りませんでしたがワカサギの解
化期から稚魚期にかけての4月上
旬頃にワカサギの成育にとって重
要な餌はなかりかきみりしてりる
植物プランクトンである硅藻が高
濃度、土浦入に多量に認められた
ことから、二の二とワカサギの
今年の不揃い分布に相関関係があ
るのかもしれない。ともみい、
霞ヶ浦という同一水域の中にワカ
サギにとって好環境と悪環境があ
るといふことはワカサギの生育に
とっては好ましくならざることで
す。以前のように霞ヶ浦の二へ行つ
ても若干の差はあつたワカサギが獲
れた時代とは大きく異なつてきて
いることは事実であり、二のよう

な事情も踏まえて今後はワカサ
ギ増殖を考えていくべきであらう
と考えます。今年も霞ヶ浦は昭和
55年以来の不漁が続く傾向は確
率は50%前後と考へられます。
最近三年間の北浦、霞ヶ浦を比べ
ると同一面積内に生存してりるワ
カサギの数は北浦が霞ヶ浦の約10
倍とみりてります。二のように
北浦と霞ヶ浦でワカサギの生息量
に違いがあるのは大まかに二つの原
因があります。一つは、産卵親魚
の量が北浦の方がかなり多しこと。
もう一つは、ワカサギの稚魚期の
エサが北浦の方が二枚又かきり豊
かであることです。なぜ二のよう
な違いが生じたかという点につりて
は今回は紙数がなくて書きませんが
のご次回に詳しく述べたいと考へ
てります。

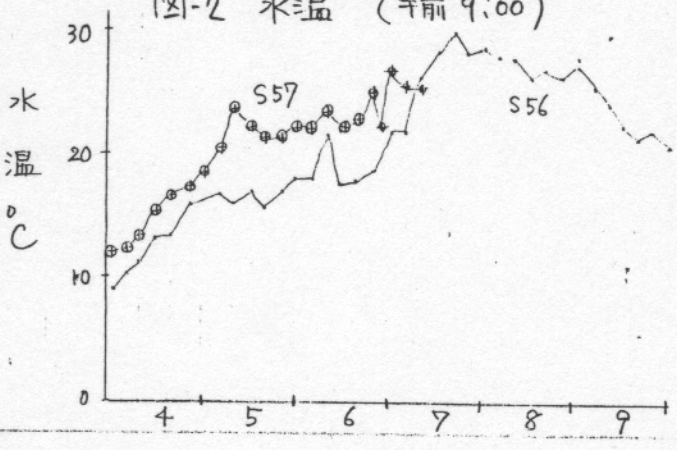
図-1 今年の植物プランクトン発生量 (木原)



網りけす養殖
各地ともアオコが増えています。
発生量も前年よりと比べ倍以
上となっております。水温も古岡め
です。これから梅雨明けに
入り水温が急激に上昇し無
風の日が多くなり、産卵部
に無酸素水塊が形成されやす
い時期が続きます。

茨内水試図

図-2 水温 (午前9:00)



酸素条件からみると今年も
比較的良好的な状態となつ
ておりますが充分な注意
が必要とす。
場所によっては酸素条件
や水温条件が良しことから
鯉の採餌が活発な漁場
も多しと思われれますが、今後
の水温が予測しにくい時期で
すから、給餌管理をして下
さい。